

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスまなざし			公表日		2025年 3月 12日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5			2
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		配置基準につきましても、関係法律に基づいて適切に人員配置を行っている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	3	建物の構造上、バリアフリーには対応できていない。事前に見学の上ご利用をされている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		感染症対策も含めて、日頃から清掃、消毒を行っている。遊び、学習空間を分けることでお子さんが楽しめる、集中できる場として環境を整えている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		児童の状況に応じて使用できる場所、気持ちを落ち着かせる場所として扉やロールカーテン等で分けられた環境を備えている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		毎日の支援会議を通して、PDCAサイクルが繰り返されており日々の支援に役立っている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者へのアンケート結果を全職員で話し合いをおこない、新しい施策を考え業務改善に繋げている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎日の支援会議を通して、課題があれば意見交換をして改善に繋げている。年齢、経験に関係なく意見を言いやすい環境ができています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3	第三者委員会の設置は行っていない。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		年間計画を立て事業所内研修を実施している。また、外部での研修へも積極的に参加することで職員の知識、技術の向上に繋げている。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		事業所ホームページ上に支援プログラムを公表している。活動計画については毎月保護者に配布している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		必ず6か月に1回、保護者や児童のニーズや課題を聞き取り、職員会議の意見交換を行い作成している。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		計画案を基に全職員で検討できる担当者会議を開催しアセスメントした上で必要な支援を共通理解して支援できるようにしている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		担当者会議の中で計画書すべての説明、書面に目を通してもらうことで共有し、日々のケース記録にも計画書に沿った支援、児童の様子、見解を記載している。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		事業所で作成した標準化されたアセスメントシートに基づく評価を行っている。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		ガイドラインに基づいた支援内容を取り入れている。5領域を踏まえた「本人支援」をはじめ、家族及び学校・医療との連携、中学、高校へ向けての支援、相談など具体的な内容を設定して、計画書を作成している。			

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		毎月15日までに翌月の活動プログラムの設定会議を開き、職員全員で意見交換をしながら活動プログラムを企画立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		児童の発達段階に合わせた活動内容にしている。また保護者や児童のニーズを考え、それに合わせた活動により様々な経験ができるプログラム作成を心がけている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		集団に適応できるための支援内容と学習や個別で関わる必要のある支援内容を作成し、評価、支援の見直しを行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		午前中の時間に活動内容の打ち合わせ、児童の様子や引継ぎを行い、共通理解と統一した支援が出来るように確認をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		支援の振り返りを行っており、職員間で意見交換を行い今後の課題を含めより良い支援に繋げることができよう記録作成している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		支援会議の記録、活動記録、各児童の計画書に基づいた内容を記録していることで、支援内容の改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		個別支援計画書のモニタリングは保護者、児童のニーズや意見をもとに、全職員で達成度や今後の支援内容の意見交換をしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7		毎日4つの基本活動を組み合わせた内容を提供している。土曜日には社会体験のプログラムを設けており、地域や生活する上で必要な体験を支援内容に組み込んでおこなっている。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		自分で決めたことをやり遂げることができるようにサポートしながら支援している。選択肢を提示して意思表現ができるようにすることもある。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		児童の特性、状況を把握している管理者、児発管が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		必要に応じて協力医療機関と連携がとれるように整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校ごとに担当の先生との引き渡しを行うことで、児童の状況把握や送迎時間の連絡、連携を図っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		相談支援員との連携も含めて、情報共有できるように努めている。療育センターや幼研などから子どもの情報を得ている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		現在、障害福祉サービス事業所へ移行する児童はいないが、その時には当事業所での支援内容などの情報を提供したい。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		児童支援センター主催の研修に参加している。その際に支援に関する情報交換や助言を受けることができる。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	3	学童保育所との交流はないが、地域の公園に出向いた際に他児と交流をする機会はある。	学童保育所や地域の子どもたちと交流を持つためインクルージョンの必要性を発信していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4	久留米市地域生活支援協議会と基幹相談支援センターによる障害児関係事業インタビュー調査には参加させて頂きました。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		個別支援計画書の説明の際や連絡帳、送迎時に、家庭での様子と事業所での様子を情報共有し、課題や今後の支援方針の共通理解を心がけている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	活動参観を通して事業所で行っている支援方法をご家庭でもできるように助言を行っている。参加された保護者が多くはなかった点は今後考えていきたい。	今後も活動参観を通して支援の意義を伝え家庭での対応に役立てて頂き、保護者への研修の機会を設けていきたい。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時には誤解がないように契約書や重要事項説明書などは読み合わせを行った上、捺印してもらっている。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		初回、更新の際には必ずモニタリングを行い、評価の説明に合わせて児童や保護者の意思、意向の確認をおこなっている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		計画書の読み合わせを行うと同時に支援内容が具体的に分かりやすく伝わる事が出来るように教材などを提示し説明を行い、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		連絡帳、送迎時、電話などで常に相談しやすい環境作りに努めている。相談があった際には面談を設けるなど迅速に対応し助言を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		児童が取り組んでいる活動の見学及び活動の意義狙い等の説明を行い、その後保護者同士の交流もしていただいた。	今後も保護者同士が交流できる機会を設けていきたいと考えている。また、兄弟も参加できる親子活動も検討している。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		苦情の対応体制については契約時に説明をしている。苦情があった場合には迅速丁寧に対応し、また全職員に周知させ記録に残すことを定めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7		翌月の活動表を配布することで行事予定や活動内容をお知らせしている。HPのブログの中で活動の様子を発信している。	HPに関して保護者への周知が不十分なところもあるため、評価表のHP公表を兼ねて再度お知らせしていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		法律に基づいて適切に運用している。職員は秘密情報の保持に関する契約書に同意、捺印している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		合理的配慮を心がけている。保護者には連絡帳や送迎時、電話連絡を行い意思疎通、情報が適切に行えるように努めている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		地域住民を招待する取り組みは出来ていない。	今後行事などの取り組みをする際に地域の方に参加していただくような企画を考えていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		全てにおいて策定し職員への周知、研修、訓練を行っている。子どもたちと一緒に年2回の避難訓練・安全学習をしている。	保護者への周知に関して、説明不足の面があるため、できるだけ周知してもらえるように入所時の説明時やお便りなどで発信していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		非常災害に必要な備品を準備し、研修、避難先を把握し避難できるように対策を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		アセスメントシートを通して服薬管理しているため、全職員が周知できるようにしている。服薬の際には漏れがないように全職員が把握出来るようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	アレルギーの程度によっては職員の認識の違いがみられるので全職員が共通認識を持つようにする。保護者と連携を図りながら医師の指示の基で対応していくようにしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画を作成しており、年2回児童とともに避難学習および避難訓練を行っている。その他にも職員へ防犯研修などの取り組みを行い、安全管理された中ででの支援に取り組んでいる。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		契約時に緊急時連絡先や避難訓練などについての説明を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハット事例を作成し全職員で安全面を検討し対策を立て再発防止、事故防止を徹底している。必要な時は研修などに利用している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		年間計画の中に虐待研修を入れており全職員で虐待防止の意識が高まるように取り組んでいる。外部の研修にも参加している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		身体拘束については契約書に記載されている内容を説明している。必要がある児童には全職員で協議を行い計画書に記載をしていく。また、児童や保護者への説明を行っている。	

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービスまなざし

公表日 2025年3月12日

利用児童数 26名

回収数 25

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	18	6	1	0	少し狭いと思います。	活動によっては少し狭いと感じることもありますので、環境調整をおこなって工夫しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	24	1	0	0		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	3	0	2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	23	2	0	0		
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	25	0	0	0	とても良く理解してもらって支援して頂いています。	子ども一人ひとりの特性や変化を把握したうえで、支援をしていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	25	0	0	0		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	25	0	0	0		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	25	0	0	0		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	24	1	0	0		
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	9	5	1	10		
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	25	0	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24	0	0	1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	23	1	0	1		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	24	1	0	0	送迎の際にとってもささいなことでも一日の出来事を伝えて頂けるので安心して子供を預けることができます。	送迎時はもちろん連絡帳にできるだけ事業所での様子、活動内容についてもお伝えし、また家庭の様子もお尋ねして共通理解に努めたいと思います。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	24	1	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25	0	0	0	悩み事や相談などをした際はとても親身になって相談に乗ってくださいます。	児童と保護者の方のニーズを把握し、寄り添い思いに沿った支援ができるようご家庭と事業所が連携していくことに努めていきます。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	13	6	1	5	父母の会はないが、親子活動や保護者交流会があったのはよかった。	今年度は親子活動および交流会として年2回活動の見学や説明する取り組みを行った。最後に保護者間の交流の場を設けたが、出席者が少なかった点は今後の課題として考えていきます。
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21	2	0	2	いつも親身になって相談に乗ってくださいます。	相談していただける場があることを再度説明し、日頃から相談しやすい雰囲気にするこことやごちらかかけの声掛けを心がけたい。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	24	1	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21	0	0	4		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22	0	0	3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	22	2	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20	1	0	4	活動予定表にあるので避難訓練があつて いることがわかり安心です。	年2回子どもたちと一緒に避難訓練をおこなつ ていますが、今後も取り組んでいきますの で、訓練のお知らせをしています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	1	0	4		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	21	0	0	4		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	25	0	0	0	とても安心しています。	子どもたちが安心して元気に楽しく過ご せるように指示的風土のある事業所であ るよう努めていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	24	1	0	0	一か月の活動予定表を見て「今日の活動 は～する！」と、毎日とても楽しみに通 所しています。	子どもたちが興味関心のある楽しめる活 動や遊びができる環境づくりをしていき たい。
	29	事業所の支援に満足していますか。	25	0	0	0	とても良くしてもらってます。 いつもありがとうございます。個々に合った 声掛けや支援をしてくださるので日々成長を 感じることができ満足しています。	保護者との情報交換を密にして共通理解のも と、一緒に子どもの成長を見守りながらより 良い支援に繋がっていきたいと思います。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスまなざし		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 14日		～ 2025年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 14日		～ 2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	将来子どもたちが自立して生きて行く上で必要な生活能力や社会性・コミュニケーション力をつけるために毎日ソーシャルスキルトレーニング(SST)を行っている。	ソーシャルスキルトレーニング(SST)は子どもたちの行動を視覚化したモデリングによるロールプレイや、運動を通して友達との関わりを学べる体験型プログラムにしている。また料理、お金の学習やお仕事体験などワークスキルやライフスキルを身につけられるようにしている。	子どもたちが楽しいと思えることを一番に考え、遊び感覚で、しかしながらしっかりとソーシャルスキルを身につけられるようさらに工夫をしていきたい。
2	専門的支援ができるように作業療法士や心理士を配置している。異職種の職員同士で意見交換をおこない、個別支援計画に反映していくことで広い視野を持って支援に当たることができる。	専門的支援計画書を作成し、計画に沿って個別指導ができている。専門職員が個別指導の内容を全職員に説明をしている。	全職員が子どもたち一人一人の特性を理解し専門的支援のねらいを把握できるようにしていく。職員の支援能力の向上に繋げていく。
3	「遊び・教育・体験」の積み重ねとともに、子どもたちの育ちに「まなざし」を向け、安心して過ごせる環境づくりを大切にしている。	療育プログラムは、すべて子どもたちの「楽しい、もっとしたい」という気持ちに繋がるような活動立案を心がけている。小学生から中学生へと進む中、実践能力をつけることができるよう体験学習型の活動内容にしている。成功経験を積むことで自信に繋がりより自己肯定感を高め、友だちへの思いやりを育て指示的風土のある環境になるよう努力している。	活動内容を説明するとともにそのねらいを保護者にお伝えし、共通理解をもって子供たちの成長に目を向けていきたい。その為にも家庭との連携をさらに密にしていくこと、また職員全員の支援への資質向上を図ることが必要である。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	本年度は親子活動と称し、2回ほど交流会を企画開催した。まなざしの活動を見学いただき、活動の意義狙いを説明後、保護者間の交流をしていただいた。しかしながら、参加者の人数が少なかったことが課題であった。	交流会の日時を平日1回、土曜日1回と保護者のお仕事を配慮して決定したが、12月から1月にかけて行ったため忙しい時期だったのではないかなと思う。また、出欠のお手紙だけでなく、口頭でも交流内容を説明し参加を呼びかける必要があったのではないかなとも思う。	保護者の方に向けた内容の説明や開催時期にもっと幅を持たせる、あるいは回数を増やしていくなど協議していきたい。
2	学童保育所との交流や地域の他の子どもとの交流の場を設けていく必要がある。	インクルーシブ教育の観点からも、学童保育所に通っている子どもたちや地域の子どもたちとの交流は大切であるが、学童保育所の状況から交流が可能なのか疑問に思い躊躇する面がある。	まずは交流の必要性を発信していく。地域の公園での活動を企画して交流の場を増やしていく。
3			